

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2135 号

Hand eczema as a risk factor for food allergy among occupational kitchen workers

(調理従事者における手湿疹と食物アレルギーリスクの疫学的な関係)

南 崇史 (みなみ たかふみ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

近年の研究において、小児の食物アレルギーの病因としてバリア機能が低下した皮膚を介した食物アレルゲンの経皮感作の重要性が強調されているが、成人に関する報告は少ない。現在までに調理師などの調理従事者における職業性の手湿疹が成人食物アレルギーを発症していることを示唆するいくつかの症例報告を認めている。しかしながら、手湿疹と成人の食物アレルギーとの関係性における疫学的な研究はなされていない。今回我々は、手湿疹と成人の食物アレルギー発症のリスクとの疫学的な関係を明らかにすることを目的とした。手湿疹を介した食物アレルギー発症のリスクが高いと考えられた職業性調理従事者（いわゆる調理師等、1592人）と比較的リスクが低いと考えられた非職業性調理従事者（いわゆる主婦など、1915人）を対象に手湿疹の有無と重症度、食物アレルギーの有無などについてウェブを介した質問票調査を行った。結果としては、職業性調理従事者は、非職業性調理従事者よりも現在の手湿疹を有するものが多く、食物アレルギーと診断されているものも多かった。また職業性調理従事者において、現在の手湿疹を有する場合には、食物アレルギーの発症リスクが増加することが示された。職業性調理従事者における検討として、個別の食物におけるアレルギー症状と手湿疹の関係性を評価した結果、手湿疹の重症度とアレルギー症状の発症リスクの上昇とにおいて有意な傾向を認めており、職業的な要因により経皮感作が生じている可能性が考えられた。本研究は、成人食物アレルギーの疫学において手湿疹の有無が公衆衛生上の問題として重要であることを明らかにした。